

【ワークショップ内容】

- 架空のまち「ど・あっぷ！タウン」の議員になって、「ど・あっぷ！タウン」のまちづくりを考えてもらいます。
- 各班（4人）の中で、各自がくじ引きで4つの政党（年代）のうち、どの課を政党かを決め、それぞれ、その政党の代表としてまちづくりを考え、意見を発表し、各班でまちづくり案を決めてもらう。

<政党（年代）>

- A) 若者党（0歳～19歳の代表）
- B) 青年党（20歳代、30歳代の代表）
- C) 中年党（40歳代、50歳代の代表）
- D) 老人党（60歳以上の代表）

【ど・あっぷ！タウンの概要】

- 人口は、30,000人
- 海がきれいで気候は温暖、とても住みやすいまち。
- これまでは農業、漁業が盛んであったが、最近、橋が出来て、工場やいくつものビルが立ってきた。
- 人口が急激に増え、新しい住宅街も出来てきた。
- 新しい住宅街は若い人や子供が多く、古い住宅街には、昔から住んでいる年配の人が多い。
- 森を壊して建物を建てたり、畑を住宅地にしたり、環境が悪くなりつつある。
- 人口が増えて来たこともあり、いろいろな施設が不足してきて（ゴミ処理場など）、不便で住みにくいという声が出始めている。



<まちづくりを考えるにあたって>

- もっと便利で楽しく住みやすいまちにするために、住民からこれまでより多く税金を集めて、新たな建物を作ることになった。
- 1人あたりの税金の増額は、15,000円/月が上限と考え、納税者12,000人から、それぞれ15,000円/月ずつ税金を増額してもらうこととなった。

→ **建物を作るのに使えるお金**は、5年間の税金を使うこととし
15,000円×12か月×5年×12,000人（納税者）
= 108億円

<まずは自分で考えてみる>

- あなたの党の人たちは**まちに対してどのような悩みや希望**を持っているでしょうか？
考えて書いてみましょう。
(参考のために、まちの声として、いろんな世代の人のコメントを紹介)
- **ゴミ処理場**はすでに作ることが決まっており（36億円）、**どこに建てればいいか**を考えてください。
- あなたの**政党の人たちの悩みの解決や希望を叶えるためには、どの建物を建てたほうがいいか**を考えてください。また、**その場所**も考えてください。
但し、**使えるお金（税金）**は、ゴミ処理場も含めて**108億円**です。
- 建物候補
 - ① 防災対策を行う<海岸沿いに堤防を作る> 【36億円】
 - ② ショッピングセンターを作る 【36億円】
 - ③ 水族館を作る 【36億円】
 - ④ 海洋研究所（ウミガメ、イルカの保護）を作る 【36億円】
 - ⑤ 老人ホームを作る 【36億円】
 - ⑥ スポーツセンターを作る 【36億円】

<政国会議>

- 同じ政党の人同士で集まって、政国会議を行って、まずは自分の考えた案を発表し、他の人の意見も聞いて、話し合いを行って、その政党としてのまちづくりの案を考えてください。

<班会議>

- 班に戻って、政党の代表としてそれぞれが意見を主張して、話し合い、班としての意見をまとめ、最終的にそれぞれの班で「ど・あっぷ！タウン」のまちづくり案を決めてください。
- 決めたまちづくり案の建物シールを地図上に貼って、まちの将来マップを作成してください。



<ワークショップ後の解説>

- まちづくりの主役は誰ですか？
 - 年代や立場が違くと意見が違ふ。
 - いろいろな意見を話し合いを通じて、一つの意見にまとめていくことはむずかしいけど、とても大事。
 - まちづくりを考えるにあたっては、古き良きものを守り、残しながら、新しいものを取り入れていくことが大事。
 - お金（税金）をどれだけ集めて、どれくらいの建物を作るかのバランスを取るのが重要。
- 皆さんの住んでるまちの人たちの悩みや希望が何でしょう？
政党別に考えてみると、違う意見が出てくるでしょうか？

<ワークショップの目的>

- 自分もまちの一員であり、まち作りを担う市民の一員であることをイメージする。
- 政党（世代）によって、さまざまな考えがあり、話し合いで意見をまとめていく（合意）ことを体験する。
- 税金という制約を意識しながら、まちづくりを考える必要があることを理解する。